

	目標としたこと	実現のためのプログラム
北海道	キャンパー、ヤングの仲間作りと自立	■勉強会■ ①食事とインスリンの打ち方、②ヤング体験談 ■モルック大会■ ■BBQと水遊び■ ■キャンプファイアー■
青森	プログラムを詰め過ぎず、教育と交流のバランスが取れた内容にすること	これまで実現できていなかった歯科の先生による講習（歯科の先生からの講演や糖尿病患者さんに関するクイズなど）
岩手	1. 患者様の生活体験の拡大 2. 日常生活場面での病状管理の習得 3. 患者様及び家族のストレス軽減・発散	1. グループ活動(小さい子も一緒に全員で登山) 2. バーベキューや外食時の血糖管理 3. 手品・大道芸の鑑賞、体験
秋田	「防災キャンプ」をテーマとして避難所で役立つ知識や技術をプロから学びつつ、楽しいイベントで親睦をはかる。	防災実践 「段ボールベッドを使って避難所を作ろう」 講師 日本赤十字秋田短大 及川真一先生 栄養士企画「非常食で昼食を食べよう」 子供たち用企画「クリスマスリースをつくろう、クリスマスカードをかこう」 保護者・成人用企画「講演 災害への備えと糖尿病治療」 講師 糖尿病災害対策チーム[DiaMAT]秋田大学病院看護師 富永幸恵さん
山形	2024年1月に能登半島地震があったため、震災対策を目標と掲げた	楽しく体を動かそう:障害物を超える動きを楽しく学ぶ。 こんな時、どうする?:災害発生時に準備するものを事前に学ぶ。心肺蘇生法を学ぶ。
福島	5年ぶりの開催だったため、新規のキャンパーがほとんどだったため、糖尿病サマーキャンプを知ってもらうこと、楽しんでもらうことを目標とした。	レクリエーションと食事全般。 レクリエーションは友達と一緒に身体を動かして遊べるようにした。 食事は質や量を上げて美味しく食べてもらえるようにした。
群馬	共同生活を通して子どもたちがⅠ型糖尿病治療の知識や習慣や社会への適応性を高めること	バクスマーの適切な使い方、年齢別での交流会(学校生活全般や病気との向き合い方)
茨城	全てのキャンパーにカーボカウントによるインスリン投与を体験させる。	キャンプ中事故無くカーボカウントを体験できるように以下のプログラムを設定した。 ・食事がバイキング形式のため、予め管理栄養士が各料理の炭水化物量を計算して提示する。 ・医師がカーボカウントを行っていないキャンパーのCIRを現在のインスリン投与量等から便宜的に推察設定し本人に提供する。 ・食事の際に本人が取り分けて来た食事からカーボ量を計算しインスリン投与量を決定するが、未経験キャンパーには医師・看護師が寄り添いインスリン投与量算出をサポートする。 ・低血糖や高血糖に対しては、医師・看護師がキャンパー本人と相談し、補食の摂取量を決定したり、医師が未経験キャンパー用に便宜的に推察計算したISF等を用いてインスリン追加投与量を決定し投与したりなどにて血糖値の補正を行う。
東京(つぼみ)	1型糖尿病に対する理解を深め、正しい自己管理能力を身に着けることを主な目標とした。また、同じ病気をもつ仲間との交流を通じて心理的な支えを得られる場を提供した。	医療事業、栄養事業では1型糖尿病に関する講義およびグループワークを行った。また、Tグループでは思いを表出する場を提供し、ピアカウンセリングに準じた役割を果たした。
東京(なかよし)	・年少者が多かったため、生活面での配慮を心がけること。 ・インスリンポンプ使用者が多いため、ポンプ使用の手技確認等を徹底すること。 ・キャンパー同士の交流をより多くできるようにすること。	・事前にスタッフマニュアルを熟読し、危険回避や予防のための資料を共有した。 ・入浴当番や部屋当番などの学生スタッフの配置を多くした。 ・インスリンポンプの着脱指導に個別対応して手技確認及び指導を行った。 ・キャンパー同士で話しをする機会、時間を多くとった。
東京(わかまつ)	・食事量・運動量に基づいたインスリン投与量の自己決定 ・低血糖時の対応を学ぶ ・勉強会や調理実習を通じて栄養に関する知識を身につける	・医師、看護学生、薬剤師など複数の医療スタッフによる勉強会 ・キャンパー同士で自己紹介/他己紹介を通じてお互いを知り、各人の経験を共有する場を設けた
埼玉	『すすめ！サマーキャンプ』 目標設定は、新型コロナウイルス拡大により停滞していたサマーキャンプが今年から以前と同じ3泊4日になったことを受け、このままサマーキャンプが今後も続いていけるよう、子供たちが自ら進んで全力でキャンプを楽しんでいけるよう、サマーキャンプの益々の前進発展を願ってメインテーマを設定した。	・固定グループはあるが、活動によって様々な人と関われる機会を設定し(異年齢集団のグループ、同年代のグループ、男女別のグループなど)、仲間と共に達成していけるような多くのゲームとレクリエーション活動を行った。ハンカチ落とし、人間知恵の輪、じゃんけん列車、ハイキング(チェックポイントによる低血糖対応ゲーム)、野外炊飯(カレーライスづくり)、運動会(しっぽとり・玉入れ・リレー・風船運び)、キャンドルファイヤー、花火大会など。 ・学校や生活の中で困ったことや感じたことを共有し、仲間同士で知恵をもらったり、連帯感を高めたりし、病気に対しての前向きにつき合っていけるようなプログラムを実施した。OB・OG 座談会、ディスカッションなど ・日常生活に密着した内容による勉強会の実施を行った。栄養教育(朝食について)、医師勉強会(毎食のカーボカウント)、歯科教育(歯磨き、歯肉炎について)を行い、普段の生活の中から自分の意思で変化を加えられることにより今後の生活の向上を目指せる内容を取り組んだ。さらに、医師勉強会では、災害が起きたときの対応について、ゲーム(カードゲーム・すごろくゲーム)を交えながら楽しく学ぶことができた。

千葉	<ul style="list-style-type: none">・1型糖尿病のこどもたちに、同じ病気の子たちとのつながりを持てる場を提供し仲間がいることを認識し療養生活の糧にしてもらう。・家族の情報共有の場を提供する。	<ul style="list-style-type: none">・レク・医師講義（サマーキャンプに向けたカーボカウントについての講義）・保護者懇親会
神奈川（横浜）	コロナ禍以降初めての開催であり、参加スタッフも初めての方が多かったため、まずは安全に怪我人なく終えることを目標としました。	開催前のスタッフ全体のミーティングでの打ち合わせで、インスリン治療中の子供たちにとって注意すべき点を重点的に指導した。
山梨	今年のキャンプのテーマは学生スタッフと協議し、「いっしょに」となりました。昨年度のキャンプではコロナ禍明け初めてのキャンプであった為か、キャンパー同士、キャンパーとスタッフ、これらの関わりが希薄であったと、コロナ禍以前より参加していたキャンパーからクレームが来しました。キャンプの本来の目的であるピアカウンセリングが、実行されていない状態にあったと考えました。その為、先に述べさせていただいたテーマを掲げ、キャンプに取り組むこといたしました。	まずは、コロナ明けのため経験的に未熟な学生スタッフばかりなので、学生スタッフの人数を増やしました。次に、学生スタッフOB/OGを招き、スタッフの心得や動き方を伝授してもらい、開催中にもアドバイスをもらいました。 バーベキューでは、全員で協力して準備を行い、参加者全員の距離を縮めました。そして、夜間にはキャンパー同士でグループディスカッションを行うことで、ピアカウンセリングの充実を図りました。 キャンプ全体を通し、学生スタッフが潤滑油の役割をし、キャンプ全体に一体感が持てるよう運営できたと思います。昨年クレームを伝えてきたキャンパーからは、コロナ前のキャンプに戻ったとの感想をもらいました。
長野	<ul style="list-style-type: none">・県内の小児糖尿病患者・家族の交流・困っていることについての相談できる場をもつ・学齢に合せた糖尿病教室の開催	<ul style="list-style-type: none">・幼児期から楽しめるレクリエーション・患者、家族と医療重視者、OB・OGで3グループに分かれての交流会 近況や困っていることを共有し解決について話し合いを行った。
新潟	1)1 型糖尿病をもつ仲間と繋がろう 2)1 型糖尿病との付き合い方を学ぼう	1)に関して:フォークダンス、キャンプファイヤーなどのレクリエーション 2)に関して: 食事前の血糖測定とインスリン量の決定
静岡	<ul style="list-style-type: none">・医師や看護師に、普段の診察では聞けないことを聞いて、病気の理解を深めること。・OB、OGの体験談を聞いて、今後の生活の参考にすること。・防災に対する備えや知識を深めること	<ul style="list-style-type: none">・参加者同士の交流を深めるためのレクリエーション活動の充実。・静岡県立こども病院の医師による、防災についての講話。
浜松	<ul style="list-style-type: none">・インスリン治療に対するモチベーションの向上・1型糖尿病への理解向上・カーボカウントの指導・再確認	<ul style="list-style-type: none">・多くの患者が参加できるように年少者は親子同伴で参加できるようにしたことで、参加者たちが多くの仲間がいることを実感できた。・勉強会で糖尿病に関する講習や、カーボカウントに対する確認を行なった。・また、食事の際にカーボカウントの練習を行い、サマーキャンプ中の血糖コントロール良好者に対して表彰をおこなった。
東海地区	災害時の対応	災害シミュレーション学習を行なった。実際に、災害が生じた場面を想定し、自分自身の命を守るために必要な物資、薬剤等を入手するというプロセスを学ぶ経験
富山	初参加の患児・家族にも、リピーターの患児にも、双方に有意義なキャンプ	運動会、立山阿弥陀ヶ原トレッキング、ヤングの寸劇など、楽しく交流できる行事、プレキャンプでのスタッフ間の十分な情報共有。初参加の母子には経験豊富なスタッフを担当につけた。
石川	元気にのびのび交流し 世代をこえた 大きな輪を感じよう	男女混合の縦割りを基本とし、開村パーティ、野外炊飯、肝試し、キャンプファイヤー等を実施した。
京都・滋賀	コロナ明けのキャンプとしては2023年に続き2回目となり、インスリンやデバイスの多様化に伴い、以前のような画一的な指導が難しくなっており、なおかつ、医療スタッフの確保も難しくなっている中で、今後のキャンプのあり方を検討することを考えながら、患自総合の親ぼくと1型糖尿病への理解を深めることを目標にキャンプを開催しました。	栄養士による勉強会、ピアカウンセリング、薬剤師によるインスリン製剤等の勉強会
大阪（くすみ）	<ul style="list-style-type: none">・1型糖尿病に関する技術や知見の向上・インスリン自己注射・血糖値測定方法の習得・メンタルケア、患者間（保護者間）のコミュニケーションの活性化・自己管理の確立、自立心の養成	<ul style="list-style-type: none">・キャンプ開始時にキャンプ中での目標を掲げさせた。最終日に成果発表・・栄養士を講師としたカーボカウントの勉強会を実施。・小学生以下と中学生以上に分かれて、医師による勉強会を実施。・医師をアドバイザーとした保護者座談会を実施。・グループ分け（小学生患児、中学生以上患児、兄弟姉妹、保護者）しワークショップを実施した。（学校生活をテーマとして、小学生以下は学校生活での気付きを共有、中学生以上は気付きと小学生以下に伝えたいこと、保護者は1型糖尿病発症時の気持ちとその後の変化を共有し、それぞれ発表する）・食事毎のカーボカウントを実施した。
大阪（杉の子）	<ul style="list-style-type: none">・小学生から高校生まで幅広い年代が楽しめるプログラムを通じて、子どもたち同士の繋がりを構築し、親睦を深めること。・災害時の1型糖尿病の療養行動についてみんなで議論し学ぶこと	年齢・学年別にプログラムを分け、小学校4年生以下は焼杉の創作活動、小学校5年生以上は里山保全活動を行い、同世代の子どもたちが関わるができる時間を設けた。一方で、全体での活動においては、「糖尿病の新しい病名を考える」テーマのもと発表会を行った。年齢や学年を問わず、各々が熱心に意見を出し合ってまとめあげ、どの班もアイデアのあふれる良い発表を行うことができた。災害時の療養行動についても同様に、班ごとに意見をまとめ発表を行い、知識を深めることができた。

和歌山	1 型糖尿病患児の疾病ならびに・インスリン治療への理解を深め、手技や対応力の向上を目標としている。また、患児家族への疾病への理解を深め、悩みを共有し、解決策のあるものは提言するようにしている	希望者にはキャンプ開始直前に保護者向け面談を実施している。この時に具体的な悩みについての話し合いをし、キャンプのなかで解決策を見いだせるものについては、提言している。 また、インスリンメンターを迎え、講演会開催・ディスカッションでの意見交換をしている。 経験の多い1 型としての先輩の話を聞くことは、患児だけでなくその保護者の悩みの解決に向けての良い助けとなっていると思う。
兵庫	皆が仲良くできることを目標としました。 またどうしてもコロナの間に途絶えてしまっとうまいかないところも多々ありますが、互いにカバーし合ったり責め合ったりしないように配慮しました。	事前準備のミーティングで意識共有しました。
岡山	今年の講義は患児とマンツーマンで生活を共にする、学生ボランティアさんへのインスリンポンプの実践について、実際に使いこなせる技術を取得することを目標に、事前講義を行いました。	携帯電話を講義にも利用して、実際のハンズオンを体験した。また、患児との事前ふれあいの際にも、実際にポンプをつけている患児の操作の様子を見学してもらい、講義は短時間として、実践に重点を置いた。
広島	同じ病気の仲間・先輩などふれあい、話し合いを通して糖尿病といかにうまく付き合っていくかを学ぶ。 糖尿病の正しい知識と血糖コントロールに必要な知識・技術を獲得する。	話そう会：世代別に分けてキャンプ卒業生が司会を行い、日頃気になることなどについて意見を出し合った。 毎食前に栄養のバランスを考えたり、自分が食べる食事中の糖質量を計算したり、それによって必要なインスリン量を決定したりした。 糖尿病教室、栄養教室：それぞれ医療スタッフから世代別の内容について勉強した。
島根	コロナ禍あけの対面キャンプ2回目であり、まずは無事に開催することを優先した。 その中で子ども達同士だけでなく、医療スタッフや学生スタッフとの交流を積極的に進めていく。さらに、今後安定して継続していくために学生スタッフの教育も行う。	子ども達同士で話しをする話そう会という時間をできる限り確保したり、イベント間に隙間時間を設けた。イベントもチームごとに活動できるよう運動会、野外炊事などを取り入れた。 学生にはキャンプ開催前に勉強会を開くなど、密にコミュニケーションを取るようにした。
高知	・初参加のキャンパーに楽しんでもらうこと ・災害への備え	・運動会：キャンパーが交流できる企画を複数考えた ・災害教育：災害職の試食と講義
徳島	■修学旅行や遠足で食べ歩きをする場合あるいはビュッフェ形式にどのようにカーボカウントを行ったらいいか体験しよう ■家族から離れて宿泊してみよう	■ミカン狩り→ポンプとペンユーザーでそれぞれ集めて、どのように食ペインスリンを注入するか相談をした ■2日目の朝ごはんをビュッフェ形式で提供した→よくホテルで提供される朝のビュッフェメニューのカーボカウントを示し、計算をしながらインスリン量を計算の練習をした ■屋台で提供されそうなお菓子を子供たちに作ってもらった→各お菓子のカーボを実際作って実感してもらった ■子どもが作ったお菓子や喫茶店のお菓子とテーマパークで提供されている食事を意識したメニューをいただけるキッチンカーを呼んで昼食をした→遊んだり食べたりを断続的に行うときのインスリンの追加の仕方を体験してもらった
愛媛	2024年8月10日～13日で開催を予定していたサマーキャンプは、直前に発表された南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)のために中止となりました。サマーキャンプの代替イベントとして、2024年12月22日にファミリーキャンプ(1日イベント)を実施しましたので、ファミリーキャンプについて報告させていただきます。 1型糖尿病のある子ども同士の交流、保護者の交流および意見交換 参加者の興味のある最新知識(カーボカウント・インスリンポンプ)の提供	<午前中> ・ファミリー対抗のクイズ大会：各職種が問題作成を分担し、1型糖尿病の療養行動に関する問題を中心に出題した。 ・カーボカウントと最新のインスリンポンプ療法についてのミニレクチャーを企画し、医師が担当した。 <午後> ・午後からは、子どもと保護者に分かれたスケジュールとし、1型糖尿病のある子どもときょうだいは、理学療法士が中心となってゲーム大会を行った。 ・保護者は、4グループに分かれて、日頃の困り事や疑問点などについて意見交換を行った。グループでの話し合いには、医師・看護師・薬剤師・ポストキャンパー等がファシリテーターとして参加し、適宜助言を行った。 ・ポストキャンパーが参加者からの質問に対して答える時間を設け、「親に何をしてほしかったか」などの質問が出た。また、進学・就職などの実際について情報提供が行われた。 子どもや保護者からは、「自分だけではないと思えた」や「悩みを共有できた」などの好意的な感想が聞かれた。また、ポストキャンパーの姿を見て、将来についてのイメージを持てる機会になったという意見もあった。
山口	コロナ下で出来なかった交流会の完全復活をすること、新規発症の方と従来からの参加の方との交流を深めること、 治療の内では特に成長にあわせてバランスよく食べることの大切さをきっちり伝えること	栄養教室の時間を充実させること、調理実習を必ず取り入れ、親子でも参加してもらうこと
久留米	コロナの影響で数年間開催できていなかったため、まずは糖尿病をもつ子供たちが同じ病気の仲間を増やし、交流を深めることを最優先課題としました。	糖尿病と生きることで困る事や悩みをお互いに共有し、同じ悩みを抱えている事やその対策をほかの子供たちがどのように行っているのかということを話し合う場を設けました。
佐賀	・同じ疾患を持つ仲間や医療者とあって、交流を深めよう ・しっかり体を動かして、低血糖の対処法を学ぼう ・災害時対応について学ぼう	・アウトドアアスレチック施設でのアドベンチャー体験を子ども達みんなで行った。 ・アドベンチャー体験中の低血糖発生時にSMBGやブドウ糖、ビスケットなどの補食を行い、医療者からアドバイスをを行った。 ・資料を用いて、地震などの自然災害に対する事前学習、災害が発生した後で行動することなどの確認を保護者を含めて行った。 ・JADECが提供する「災害時LINE」の説明を行い、登録を促した。
大分	コロナ禍での3年間の中断を経た再開後2年目であったのと、直前に南海トラフ地震臨時情報が出た時期であったので、災害対策も含め、糖尿病の疾病教育の時間を増やすことを目標としました。	糖尿病教室で災害対策に関するグループワークを行うように企画しました。 また、今年はジャスティンさんに来ていただけたので、糖尿病を持ちながら生活すること、運動することを皆で学ぶことができました。

熊本	・カーボカウントによるインスリン注射量決定法の習得・習熟 ・持続血糖測定器の使用による食事や運動と血糖変動との関連を習熟	・毎食後に、炭水化物量の合わせたインスリン注射量を医師やスタッフと検討　・低血糖や高血糖の際に、持続血糖測定器のデータを見ながら、一緒に振り返る
長崎	・血糖の自己管理ができるようになる。 ・インスリンポンプ療法の患児が多いため、緊急時に備えてペンによる注射での対応もできるようになる。	・カーボカウントゲームを通じて、食事やおやつに含まれる糖質量を意識・計算できるように楽しく学ぶ。 ・ペン（注射）での手技について医師による講義を行い、実際に模擬セットを使用しペンで打つ練習をした。
宮崎	テーマ：(W)ワクワク(B)ぼくらのサマーチャレンジ(C)キャンプ〜学びと遊びの二刀流〜 Covid-19の影響で、リモートおよび日帰りの開催であったが、今回久しぶりの現地開催のサマーキャンプになりました。そのため、キャンプ初参加が多く、コンパニオンも申し送りが途切れ、不慣れな中でのキャンプ開催となりました。したがって、2024年度はキャンパー間、スタッフ間、キャンパー―スタッフ間の交流を深めることを目標にしました。	開会式のオリエンテーションを充実させ、食事の時間は長めに取り、キャンパー同士は年齢の近い子ども同士を近くにするなどした。また、みんなで温泉に行ったりした。
鹿児島	真夏日の開催およびコロナ5 類移行後であり熱中症および感染症対策をとりながら、1 型糖尿病の患児、親、OB会の交流の機会をつくる。 日向灘地震直後の開催となり、避難経路の確保、災害への備えへの知識を深める	屋根付き屋外で開催した。1 型糖尿病OB の体験談、栄養士からの食事のお話、災害への備えについてパンフレットを用いながら、理解を深めた。対抗戦のタッチラグビーを通して、同世代とふれあい、血糖測定や低血糖対応について確認した。
沖縄	まずは再開し、安全に運営することを目標としました。	勉強会を複数回開催し初参加のメンバーと安全管理について何度も協議した。
香川	今年の糖尿病キャンプは、大半のスタッフが、過去の糖尿病キャンプで宿泊していない状況であったため、昨年の糖尿病キャンプと同じ時期、同じ日数で行うようにした。 今回参加した医療スタッフやボランティアスタッフが次年度以降にも参加できるように様々な改善点を確認するようにしていった。	栄養教室では、清涼飲料水の糖質の量を確認したり、歯科衛生士による歯のケアの大切さを、糖尿病教室では、災害時における準備物や、災害時の必要物品の確認に重点を置いた。 カーボカウントを取り入れて、各自の糖質/インスリン比(CIR)、インスリン効果値(ISF)を確認するようにした。